No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
1-1	7	基本目標1の「オオタカがすむ」の表現	基本目標1の「オオタカがすむ」ためには、市野谷周辺の森林が保全できていれば達成できてしまう。このため①～④の下位項目(特に②～④)を合わせた目標としては、ピントがぼけてしまうのではないかと。よって、オオタカは削除で、単に「自然と共生した緑と水に育まれる街」でいいと思う。オオタカを入れることでのインパクトとの兼ね合いであることは理解するが、やはり入ると個人的には違和感がある。	「オオタカがすむ」の表記については、7ページの施策の方向に示すとおり、市野谷の森とオオタカに限定したものではなく市内全域での自然環境・生物多様性保全を象徴する表現として用いていますので、現状のままとします。オオタカの生息・営巣のためには、餌として必要となる多様な生物(野鳥や小動物など)が必要であり、行動範囲は市野谷の森にとどまらないことによります。 【関連意見】 2-1、7-5、9-6	無し	
1-2	8	大堀川リバーサイドプロジェクト	「大堀川リバーサイドプロジェクト」において、市の役割は整備だけなのか。維持管理は「大堀川美しい水辺づくりの会」が行っているとしているが、草刈り等費用がかかるものについては、市の関わりが不可欠である。また、草刈りの頻度が低く、夏は雑草ぼうぼうになっていることがある。市として、維持管理にどうかかわっていくのか(部分的であっても)主体的に書くべきではないか。(大堀川～の会と協力してとか、役割分担してとか等)	・大堀川については、県・市・市民団体が協力して維持管理を行っていますので、表現を修正します。 ・なお、ごみ拾い等の清掃活動は自治会や市民団体が、通路等の散策に利用される施設は流山市が、その他の部分は河川を管理する千葉県が行っています。	有	8ページを修正(元文) 整備計画には、周辺自治会なども参加し、その後地域の方々を中心に発足した「大堀川美しい水辺づくりの会」が、維持管理や子ども向けのイベント、ワークショップなどを行っています。 (修正案) 整備計画には、周辺自治会なども参加し、その後地域の方々を中心に「大堀川美しい水辺づくりの会」が発足しイベント等を行っています。維持管理については、ごみ拾い等の清掃活動を同会や周辺自治会が、通路等の散策に利用される施設は流山市が、その他の部分は河川を管理する千葉県が主体となり、それぞれ協力して行っています。
1-3	9	市の取り組み・公共交通網の整備	市の取り組みとして、公共交通網の整備を推進するのは結構なことなのだが、裏表となる不要不急の自家用車の利用抑制についても合わせて記載してはどうか。 例えば、雨の日の流山おおたかの森駅東口においては、自家用車がひっきりなしに出迎えに来て、バスの停車位置のすぐ前に止まり、公共交通機関であるバスの通行を妨害することがしょっちゅうである。(酷いときは数分バスが発車できない) これを抑制し、ロータリーへの進入を規制したり、バス停近く(車が止まるとバスの通行に支障がある場所)は駐停車禁止にしたり、警察と協力して取り締まりを強化したり、近くのコインパーキングへの誘導等の対応が必要なのではと思っている。それがなされなければ、市民もバス事業者もさらなる公共交通網の利用や整備に後ろ向きになってしまうのではないかと。その際、文句を言う市民に対して、流山市では公共交通網の整備に加え、不要不急の自家用車は環境対策の点からも抑制することを謳っているため、このような対応をしていると言え、納得する人もいるのではないかと。上記の件は改善がなされなければ、別のしかるべき部署へ言うべき話と思うが、いずれにせよ、不要不急の自家用車抑制は入れておくべきと思う。	・本計画では、9ページの市の取組みに「公共交通の整備の推進」を位置付けており、この中に、ご指摘の自家用車抑制等も包含しています。また、自家用車抑制については、個別計画である地球温暖化対策実行計画(区域施策編)で位置付けています。	無し	
2-1	7	基本目標1「オオタカがすむ」	①【基本目標1 自然と共生しオオタカがすむ、水と緑に育まれるまち】に対し、「オオタカがすむ」定義を明確にすべきです。営巣地としての森が存在するのか、狩場としてオオタカの生活圏に含まれていれば良いのか、あるいは人工飼育されている場合でもオオタカがすむと言えるのかどうかで、目指すべき環境の在り方は大幅に変わってきます。10年程前に栃木県の地元新聞紙の中で、オオタカの生活圏が通常は直径で10キロメートルほど、子育て中は30キロメートルに及ぶことが追跡調査で分かったという記事を読んだ覚えがあります。その記事に寄れば、オオタカは流山市全域を遥かに超える生活圏を持っているとも考えられます。その中で流山はどのポジションを担うことを目標として「自然との共生」を掲げるのか、目標を明確にすべきではないでしょうか。 この時、オオタカの営巣地としての森を守り育み、その緑と水に育まれるまちを目指すのであれば、食物連鎖の頂点に立つオオタカの、生活を支える巨大なピラミッドを守り育むことを目標とするということだと思います。	【1-1】参照。	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
2-2	7	「生物多様性流山戦略」の推進	<p>②【実行計画 生物多様性ながれやま戦略】の推進について、①に関連し、オオタカの営巣する森を守ることを目標にするのであれば、生物多様性はその種の多少を目標とするだけでなく、その量の多少も目標に掲げるべきです。</p> <p>具体的には、森の面積だけでなく、環境負荷の低減に取り組む隣接農地・緑地帯等の面積等も目標数値に加えてはどうでしょうか。また、本来の自然の森の緑と、公園や農地や緑地帯などの緑、そして街路樹としての緑を区別しては如何でしょうか。</p> <p>おおたかの森S・Cの広場の様な場所は、人間には心地よい緑でしょうが、地表は舗装され、生物多様性の面からみれば森とはほど遠く、オオタカの棲める森とは言えません。また柏の葉公園のような整備された緑は、生息する生物は多様性を持つでしょうがオオタカが棲める環境とは言えないでしょう。同じ公園でも千葉市にある泉自然公園の様な公園ならば、ずっとオオタカの生息できる環境に近く、生物多様性の面から見ても豊かな緑と言えると思います。</p> <p>オオタカを頂点とする食物連鎖を守るということは、鳥、小動物、爬虫類、両生類、魚類、昆虫、植物、微生物、菌類を含めて食物連鎖の土台を大きくする事、守る事を意味するはずで、その上で流山の自然環境に対する理解を深め、目標を掲げ、実効性のある経済効果も考えた施策が必要になるはずで。</p>	<p>・本基本計画は、環境基本条例に基づき、「環境の保全及び創造に関する施策の総合的な計画」として作成しますので、個別具体的な指標等については個別計画である生物多様性ながれやま戦略見直し時に検討します。</p>	無し	
2-3	7	「生物多様性流山戦略」の推進	<p>③【森の保全】に関して、実効性のある森の保全を考えるのであれば、森に現実的な価値を付けなければ現在の社会制度の中で森を維持することは大変に難しいことと考えます。現実的な価値とは、具体的な経済的利潤の事です。</p> <p>『流山市一般廃棄物処理基本計画』の中にバイオマスの利用が謳われています。バイオマス利用の最も効率的な利用方法が堆肥としての利用であることは、バイオマスを推進する各地方都市の取組をみれば顕著です。その堆肥の原料生産場として森に価値を創り出すことに関しては、近隣では栃木県茂木町に事例があります。</p> <p>廃棄物処理の推進策から始まり、循環型社会の構築、農業の活性化、および地産地消への取組へと繋がる施策の推進を、基本計画に文言として取り入れるのは如何でしょうか。</p> <p>地産地消の取組では、農薬使用の低減に取り組み食物連鎖の土台の役割を担う農地の生産物であり、かつ森から生まれる堆肥等を使用し循環型社会の推進役となる農業・農産物に高い価値をつけ、優先的に地産地消に組み込んでいくことを提言します。</p>	<p>・流山市では、循環型社会構築のため、平成22年度に「森のまちエコセンター」を開設し、公園や家庭から出る剪定枝を収集し、チップ化・堆肥化し販売する事業を開始しました。その後の東日本大震災と放射能の影響により、現在事業を中断している状況にあり、同事業の再開については、今後の放射能の影響の推移を見ながら判断したいと考えます。また、地産地消については7ページの施策の方向に位置付けています。</p>	無し	
2-4	30	流山市環境基本条例	<p>④【流山市環境基本条例】から関連して、流山市環境基本条例の制定は平成13年度と書かれています。情勢の激動する今日の環境問題に照らし合わせると、環境問題としての【都市熱】及び【通風障害】に関する項目を新たに加えることを提案します。</p> <p>「流山市環境基本条例」に【都市熱】と【通風障害】の概念を加えた上で、これからの都市構造、構造物等の景観に関しての言及と、クールスポット(その発展的クールライン、クールエリア)の概念を「流山市環境基本計画」に加えることを提言します。</p> <p>クールスポットとは、都市熱の環境負荷に対して、その緩和・解消の役割を担う場所のことを指します。このクールスポットの概念を取り入れて、自然の森に対する公園や緑地帯、街路樹等の目標を明確にし推進していく事を提案します。</p>	<p>・流山市環境基本条例は、環境施策を総合的かつ計画的に推進することを規定しているため、ご指摘の事項についても包含しており個別具体的な事項を特別に扱うことは馴染まないと考えます。</p> <p>・ご指摘の「都市熱」「通風障害」「クールスポット」については、まちなか森づくりプロジェクトなどの事業による都市緑化等により、地球温暖化防止と合わせ推進したいと考えています。</p> <p>・景観については、「流山市景観計画」により、緑化による建築物の修景を含めた施策を推進しています。また、第2次環境基本計画素案では、13ページ「市の取組み」に記載しています。</p>	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
3-1	2	3行目「社会経済情勢や行政課題等の変化も考えられることから、必要に応じた見直しを行います」	計画素案作成にあたってのご苦労には敬意を表します。また市への暖かい思いに、この場をお借りして感謝申し上げます。そのうえで、以下にコメントさせていただきます。 文中「なお、社会経済情勢や行政課題等の変化も考えられることから、必要に応じた見直しを行います」とあるが、既に規制緩和、地方創生で見越せるものに対する行動計画(案)が示されていると良い。他に先駆け、様々な試みが展開されることを期待したい。	・先進事例については国の動向等を含めた情報収集を行うと同時に、市総合計画等との整合、費用対効果等を総合的に勘案し各実行計画見直し時に検討します。	無し	
3-2	3	25行目「温室効果ガスについて、住宅やオフィス、店舗等の民生部門における排出量削減が重要です」	文中、「都心から一番近い森のまちを都市イメージとして各施策を行っています。」また「温室効果ガスについて、住宅やオフィス、店舗等の民生部門における排出量削減が重要です」とあるが、基本目標2の「再生エネルギーの利用、省エネ性能の高い設備…」に留まること無く、意識高揚と行動の実効性を上げるための、徹底した仕組みづくりをすること。市民・事業者及び市が一体となり得る形態を検討し、創っていくことが示されていると良い。	・市では地球温暖化対策実行計画に基づき、市民団体や事業者からなる「ながれやま地球温暖化対策地域協議会」で民生家庭部門(家庭から排出される二酸化炭素)の排出量削減等について検討いただいています。	無し	
3-3	10	15行目「地元企業と流山商工会議所が設立した「流山市太陽エネルギー活用センター」との協働」	文中、再生エネルギーの活用、普及に関して、「地元企業と流山商工会議所が設立した「流山市太陽エネルギー活用センター」との協働」とあるが、基本目標5の③参加型事業、協働事業、ネットワークづくりの推進に留まらず、市内産業の育成に向け、市民・事業者の起業を促すとともに、市も交えた協働参画を行える仕組みづくりが示されていると良い。 こと、環境、エネルギーに関しては、市民・事業者・自治体の区分けに留まらず、新たな仕組み、形態を模索し、行動していくことが、間近な次代に求められている。新鋭の人たちを中心に老若の活躍が期待される。	・10ページの「流山市太陽エネルギー活用センターとの協働」は、太陽光発電設備の普及に係る市内事業者との協力を目的としています。 ・市民・事業者等による協働については、情報収集に努めるほか、事業者や市民団体から具体的な提案があれば、その時点でご相談に応じたいと考えています。	無し	
4-1	1	1. 計画の趣旨 (2) 計画の位置付け 「都市計画等の他分野との連携を図ります」	「都市計画や治水計画等の他分野…」とする。河川や水路・水辺は自然環境に与える影響が大きいため治水計画を追加表示する事を希望します。	・「都市計画等」には、市全体の雨水整備計画を含め様々な都市基盤の整備が含まれますので現状のままとします。	無し	
4-2	2	3. 計画の進捗管理と推進「推進は、環境マネジメントシステムで行います」	「環境基本計画と施策の推進、進捗管理は、環境マネジメントシステムで…」と変更する。推進して進捗管理をしますので「進捗管理と推進」では推進を先に持ってきた方が良いです。	ご指摘のとおり修正します。	有	(元文) 3. 計画の進捗管理と推進 環境基本計画と施策の進捗管理、推進は、環境マネジメントシステムで行います。 (修正案) 3. 計画の推進と進捗管理 環境基本計画と施策の推進、進捗管理は、環境マネジメントシステムで行います。
4-3	2	3. 計画の進捗管理と推進「進捗等については、毎年度発行する流山市環境白書で公表します」	H22～H25の環境白書、「自動車騒音・振動-交通量(上下線・四輪車合計)の推移」の交通量データのH21以前の数値にミスがあります。H22版とH23版の時に指摘しましたが、その後も訂正されることなく現在に至っています。	確認の上、環境白書を訂正します。	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
4-4	5	1. 計画の体系 「流山市が目指す望ましい環境像 緑・水・風土の豊かさを子どもたちに残そう 森のまち・流山」	大人目線の表現で子供たちには理解し難いのではないのでしょうか。 「子どもたちに」という表現ですが、読む世代によって理解の違いが出ます。 父母や祖父母の世代は今の子供たち・孫たちと理解しますが、今の子供たちはこれを読んで自分たちの事かさらにその子供たちの事か迷います。一般的ですが「未来に」や「後世に」の方が統一した理解が得られると思います。 「緑・水・風土の豊かさを」として、一般的には現在の流山の環境像を後世に残すという事がイメージされます。しかしp6に「子どもたちに残す「森のまち・流山」の将来像は、…可能な限り第二の原風景に近づけること…昭和45年頃の流山は…「森のまち流山」の第二の原風景と考えます」とあります。原風景ということであるならば、「森のまち・流山の原風景」とイメージ出来る様にしたいですね。	・具体的に「子どもたち」を表記することにより、市民一人ひとりが自分の問題として捉え、考えることができるよう敢えて「子どもたち」の表現としたものですので現状のままとします。	無し	
4-5	3、5、13	生活環境と道路騒音に関して	「快適な生活環境で、…」・「安心して健康に暮らせる快適な生活環境の保全」と謳っておりますが、一方「一部主要道路の騒音において未達成となっている」と現在すでに道路周辺の住環境で問題になっている部分もあり、将来にも問題が継続します。それに対して、「市の取組み…」には、この道路周辺の住環境への取組みが記述されていません。問題となっているのは国道や県道ですので、流山市としては対応出来ないという事でしょうか。	・市の取組みを追加記載します。 ・道路騒音については、市内8地点の測定を行いデータを千葉県、NEXCO東日本、警察に情報提供を行っています。また、国の法定受託事務として、常磐自動車道を含む幹線道路の常時監視と面的評価を行い、国に報告を行っています。	有	(13ページ基本目標4「市の取組み」に追加) 主要道路の騒音等について測定し、千葉県、NEXCO東日本、警察への情報提供と国への報告を行います。また、状況に応じて改善要望を行います。
4-6	10	4つの理念で太陽光を軸に展開～流山市の再生可能エネルギー～	「…太陽光発電を軸とした施策展開…」・「公共施設への設置と屋根貸し事業」と再生可能エネルギー利用の施策が提示されています。 そこで三輪野山地区に計画中の都市軸道路(江戸川新橋道路)の高架防音壁に太陽光発電パネルの設置を提案します。高架防音壁は真南を向いており、太陽光発電パネルの設置場所としては絶好の場所です。流山市の再生可能エネルギーへの積極的な取組みのモデルとして評価されると思います。	・都市軸道路(江戸川新橋道路)については、事業主体が千葉県となっています。現在、周辺自治会等からも同様の要望を千葉県に行っています。	無し	
4-7	9	②都市と交通の低炭素化	電気自動車以上の低公害車として、燃料電池車が近い将来、話題になると思います。 しかしそれ以上の低公害車は自転車です。流山市では、自転車が安心して走れる道路や駐輪場、レンタルサイクルなどの自転車活用システムが十分ではありません。欧州の都市には自転車をシステム化して活用し、省エネ・低炭素化に成功している事例があります。 この基本計画には、自転車について一切書かれていませんが、流山市としては将来とも自転車活用を重視しないという事でしょうか。	・自転車利用の促進については、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)で駐輪場整備やレンタサイクルの検討を位置付け、地球温暖化対策実行計画(事務事業編)で市職員の公用自転車の活用を位置付けており、重要な対策の一つであると考えています。 ・なお、市民向けのレンタサイクルについては、平成23年度に東京大学や柏市と社会実験として行いましたが利用者が少数であったため事業化に至りませんでした。	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
5-1	不特定	地球温暖化対策に関連して	<p>「ながれやまニコニコプラン」策定に協力した者として、そのPDCA検証が出来ていないうちに新たな計画を進めようとしているのは残念です。</p> <p>本来国境のない地球温暖化対策、すなわちグローバルなCO2削減は、テクニカル(ハード側面)と暮らし方の変容(ソフト側面)の両側面でのPDCAマネジメント如何であり、市町村単位の目標設定、あるいはその見直しといったローカル対策は費用効果、すなわち流山市市民税の使い方に対する「CO2削減量の可視化」がなければ「絵に書いた餅」となるのは明らかである。</p> <p>流山市のHPには「ながれやま環境家計簿」という立派な「経営資源」があるにも関わらず一向に普及しないのは市民の怠慢でなく、縦割り行政(熱意のある職員が数年で変わる)の欠点と思う。これを補うのが環境系NPOと思う。</p> <p>私は市の推奨に従い愚直に当初(平成18年)より毎年記入している。年度別のCO2排出量合計(電気・ガス・灯油・ガソリン・水道からの排出量)は年度(4月～翌年3月)、ながれやま環境家計簿CO2合計、基準値比較</p> <p>平成18年度基準年、4,752kg、基準値4,750kg 平成19年度1年目、4,748kg、 平成20年度2年目、4,101kg、-13.7% 平成21年度3年目、3,956kg、-16.7% 平成22年度4年目、3,555kg、-25.2% 平成23年度5年目、2,835kg、-40.3% 平成24年度6年目、1,813kg、-61.8% 平成25年度7年目、991kg、-79.1% 平成26年度達成見込、950kg、-80.0%</p> <p>となった。同家計簿には熱源別分析グラフもあるので行動目標が立てやすい。これこそ「ながれやま環境家計簿」によるPDCAの成果であり、IPCCの提唱する「現在よりも80%削減」の実証例ではないか。(本年2月の横浜市でのIPCC総会に出席されたパーセル副議長にお会いした際、本件報告し、交換した同氏の名刺裏に「Congratulation for your efforts!」と書いていただいた最初の日本人となったのは流山市民としての誇り)</p> <p>市民としての温暖化対策は省エネ製品(ハード)と安心快適な暮らし方への変容(ソフト)であるが「わかりやすい」市民向け環境施策は「シンプル イズ ベスト」につける。「ながれやま環境家計簿」を毎月付ける習慣」だけを定着させれば「気づき、考え、実行する市民」は自ずと増えてくるものと思う。</p>	<p>・今回第2次計画を策定するのは環境基本計画であり、今後行う地球温暖化対策実行計画(区域施策編)「ストップ温暖化！ながれやまニコニコプラン」の見直しで評価・検証を行います。</p> <p>・環境家計簿については、平成21年度に様式の変更を行い、光熱水費の領収書を確認することで記入できる簡易なものを作成し、環境講座や奨励金交付を申請する市民に配布し普及を図っています。さらに、家庭での電気使用量を把握するきっかけとして、電気使用量を前年度と比較する「流山節電チャレンジ」事業や、県補助を活用したHEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)設置の補助等を行っています。</p>	無し	
6-1	8	基本目標1「自然と共生しオオタカがすむ、緑と水に育まれるまち」◆市の取組み・緑や水の連続性に配慮した、動植物の生息・生育環境の保全・再生に努めます	<p>基本目標1「自然と共生しオオタカがすむ、緑と水に育まれるまち」という基本目標があるので、オオタカ保護の観点から、市の取組みに続く文言の所を以下のように変えていただけないでしょうか。</p> <p>「・緑や水の連続性に配慮した、オオタカ等の動植物の生息・生育環境の保全・再生に努めます。」</p>	<p>・目標では、市全域における自然環境・生物多様性の象徴としてオオタカの表記を入れました。取組みではオオタカだけが強調されないよう、現状のままとします。</p>	無し	
6-2	21	【重点地区・拠点での保全・回復】について	<p>平成26年度に2重点地区の3年間のモニタリング調査が完了したことから、調査結果のまとめと評価を行い、重点地区に係る保全・回復のあり方を検討します。</p> <p>となっておりますが、その拠点のひとつ市野谷の森はいま危機的状況となっております。今年初めボーイスカウトの団体が「県立市野谷の森公園」予定地内の一部を地主から借り受け、伐採し拠点をつくり活動を開始しました。これに追随し他の地主も資材置き場等として事業者へ貸し、森が伐採され消滅する事を危惧しております。流山市の象徴ともいえる市野谷の森の保全に努めてください。また公園計画が発表されてから15年が経過し用地買収も公園整備も進んでいません。千葉県に対して「県立市野谷の森公園」を早期実現させるよう働きかけてください。</p>	<p>・現在、公園の一部については、千葉県が整備(計画期間平成19年度～平成29年度)を進めていますが、残りの部分についても、早期実施を千葉県に要望していきたいと考えています。</p>	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
6-3	7	①「生物多様性ながれやま戦略」の推進 市域の緑と水、オオタカをはじめとする多様な生きものの生息・生育環境を保全・再生し・・・	市域の緑と水、オオタカをはじめとする多様な生きものの生息・生育環境を保全・再生・・・とありますが 現在流山市内には、市野谷の森をはじめオオタカの生息地が4か所あります。今年は市野谷の森だけが繁殖に成功し、他の3か所は営巣しませんでした。いずれも営巣地の伐採などで、繁殖・生息が危ぶまれています。オオタカは流山市のシンボルといえます。流山市内のオオタカの生息調査を行い、生息地、営巣環境の保全・再生を切にお願いします。 併せてオオタカの保護を図り、もって多様な生きものの生息・生育環境の保全を目的とした、オオタカ保護指導指針策定のご検討をお願いいたします。	・オオタカを始めとする生物の保護については、生物多様性ながれやま戦略に基づき、環境団体等の協力をいただきながら推進したいと考えます。 ・オオタカは市の野生生物を代表する野鳥であると認識していますが、市内には他にも多くの生物が生息していますので、オオタカに限定した指針を策定する予定はありません。	無し	
7-1	1	第1章計画の基本事項	現、流山市環境基本計画(以降、第1次基本計画と称する)と比べ簡素な表記となっている点は評価したい。 1、計画の趣旨 (1)計画の目的＝「環境の保全及び創造」に注釈を記した点は評価したい。 (2)位置づけ＝ここでのポイントは、「都市計画等の他分野との連携」です。 環境政策は、行政のあらゆる部署と関係するので従来の縦割り行政を打破して推進する必要があります。 「計画の役割」が抜けていますが第2章で記載されています。 2、計画の期間と対象 対象＝今回は、「自然環境」、「資源・エネルギー」、「生活環境」、「環境配慮」としているが、第1次基本計画「循環」、「共生」、「快適」、「保全」の分類の方が分かりやすいのではないかと。特に「資源・エネルギー」の表記は市民感覚ではない。 3、推進主体 環境政策は「市域を越えて広域的な取り組みが必要」の表現は評価出来る。 4、進捗管理 「PDCAサイクルにより運営されています」としているが、「点検・評価」を見える化して欲しい。「点検・評価」結果を市民への説明が必要です。 (環境白書の説明会や有料配布も検討して欲しい) また、指標は平成31年まで変えないとしているが如何であろうか。 現在の指標で見直しが必要と思われる点が何点かある。 また、施策に対して指標が示されていないのもある。新たな指標が必要ではないか。	①「循環」「共生」「快適」「保全」は、環境行政の分野での専門的用語であるため、計画の対象の表記を見直し平易にしたものです。 ②進捗管理については、環境マネジメントシステムで評価し、環境白書で公表を行っています。 ③指標は市総合計画との整合を図るため、市総合計画に位置付けている指標を用いており、指標の追加については、毎年度行う行政評価で市総合計画の指標の修正等があった場合修正を行います。	無し	
7-2	3	第2章地域環境と環境課題	第3章以降にも関係するが、第1次基本計画で掲げた課題の「点検・評価」をどのように捉え今回の第2次計画にどのように反映したかを明らかにする必要があります。「平成25年度 流山市基本計画策定に係るアンケート」は、その一部であり第1次基本計画で掲げた課題で、PDCAサイクルが見えない項目があります。 (1)自然環境＝第1次基本計画では、「身近な自然と地域資源を大切にするとし、中部地区の基本方針で「新駅周辺における緑の創出を推進する」としている。この「点検・評価」をどのように捉えているか。第2次基本計画の「基本目標1」との違いが分からない。 (2)都市環境＝上記同様に、都市緑化の重要性は第1次基本計画でも掲げている。なぜこの10年間に出来なかったのかの「点検・評価」を踏まえて、今後の10年間でどのように実施するかが「基本目標1」です。「基本目標2」も含め期待したい。緑化の指標を設けて欲しい。 (3)環境負荷＝1人当たりのごみ排出量は減少しているとしているが、人口増加に伴い、ごみ発生総量は増えているので、ごみ発生総量を指標にすべきと思う。「基本目標1」「基本目標2」の施策に注目したい。	・ご指摘の第1次計画における基本方針については、土地地区画整理事業における、計画的な公園や緑地、街路樹の配置、斜面緑地や既存樹林に極力配慮した整備計画としていきます。また、大堀川の整備や街路樹整備等により緑化計画に基づいて緑を確保するとともに、グリーンチェーン認定の推進を図っており、各事業は行政評価(事務事業マネジメントシート)で評価を行っています。 ・緑化についてはみどりの基本計画で目標水準を定めています。 ・ごみ排出量の指標については、総量指標は人口動態の影響が大きく、市民の皆さん一人ひとりの取組などが見えにくいという欠点があります。現在の流山市は人口が増加していますが、多くの自治体では人口が減少しています。こうした人口の増減があるため、原単位(ここでは1人1日当たり)を指標とした方が、施策の進捗を正確に管理できるものと考えます。	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
7-3	5	第3章計画の体系、基本目標、施策の方向性	1. 計画の体系 P2の(2)で掲げた分類と相違している。 ここでの体系は第1次基本計画の「循環」「共生」「快適」「保全」となっている。 第2次を第1次の分類に置き換えると 循環＝基本目標3「こみを少なく・・・」 共生＝基本目標1「自然とともに・・・」 快適＝基本目標2「エネルギー・・・」 基本目標4「快適な・・・」 保全＝基本目標5「市民・事業者・・・」 2. 望ましい環境像 第1次も第2次も同様と考える。	・2ページの対象と5ページの体系はそれぞれ以下のように対応しています。 自然環境:基本目標1 資源・エネルギー:基本目標2・基本目標3 生活環境:基本目標4 環境配慮:基本目標5 ・第1次計画との変更点としては、第1次計画で「循環」に廃棄物・リサイクル、エネルギーが入っており、「快適」に公害と都市対策が入っていたものを、地球温暖化対策に対応するため、エネルギーや都市対策など地球温暖化対策に関連するものを、基本目標2に切り分けて整理した体系になっています。	無し	
7-4	7	3.基本的な目標・施策の方向	3. 目標と施策 第1次基本計画で掲げた個別施策(P27)の検証・評価を踏まえて各基本目標を検討して欲しい。(同じ施策になっていないか? 絵に描いた餅になっていないか?)	・第1次計画における個別施策については、市総合計画に位置付けている事業により推進しており、その評価は毎年度行政評価(事務事業マネジメントシート)で行っています。 ・本計画では望ましい環境像の実現のため、現状に対応し、環境に関する施策を新たに5つの基本目標として整理し、市総合計画に位置付けている事業から市の取組みをまとめています。	無し	
7-5	7、8	基本目標1	「オオタカが住む」の文字は必要か? 緑の保全が必要とするのは第1次基本計画も同じである。 この10年間の緑地の保全状況(割合)と今後10年間の緑地の保全目標値を設定する必要があるのではないか? 目標値なくして「保全・再生に努めます」は絵に描いた餅となります。 PDCA管理が出来ない。 「市内の緑に満足している市民の割合」の実績値が良くわからない。 先のアンケートでは、P11の「自然豊かと思う」は53%程度である。 P51の自由意見では緑地についての意見が多くあります。 第2次基本計画P8で「市内の緑に満足している市民の割合」が87.8%は不自然(P34で「普通」も含めるのは?)である。 指標として適切であるかどうか? 同様に「市の取組み」にはそれぞれ目標指標を設定して欲しい。	・オオタカについては、【1-1】参照。 ・緑地の指標については【7-2】参照。 ・「市内の緑に満足している市民の割合」等の目標指標については市総合計画の指標を用いています。 ・市の取組みは、市総合計画後期基本計画に位置付けている事業からまとめており、各事業の指標は行政評価(事務事業マネジメントシート)で公表しています。	無し	
7-6	9、10	基本目標2	「エネルギー効率がよく」の表現はおかしい? 方針の「エネルギー効率を高めるとともに・・・」は何を意味しているか不明。 「高効率の機器を使うことで低炭素化をすすめる・・・」の表現と思うが、目標指標の「市街地内CO2吸収源増加率」とは何か? P34の説明では良く分からない。(計算根拠を示してほしい) 太陽熱温水器は、太陽エネルギー活用の面で有利です。太陽熱発電も研究されている。最下段の表記は不適切です。 ぐーりんバスは、自家用車の利用を抑えることでCO2削減になっているが、空車で団地内を走行するバスは、排ガスを団地内に振りまいている。バス燃料のクリーン策(電気自動車など)も検討して欲しい。	・「エネルギー効率が高い」の表現は、経済産業省等で「Energy Efficiency」の和訳として燃料、機器などから事業や国家単位など広義に用いられている表現ですので、現状のままとします。 ・吸収源の計算方法は、平成21年度を基準とした、公園、緑地、街路樹、グリーンチェーン認定宅地等の合計面積比です。34ページの指標の算出式等に、基準年と面積比であることを補足修正し、7ページに説明の文章を追加します。 ・太陽熱利用等については、市は太陽光発電を軸に施策を推進していることから現在の表記としたものです。 ・ぐーりんバスについては、バス事業者の車両更新時に低公害車等への更新要請を行っています。	有	34ページを以下のように修正。 (元文) 公園・緑地・街路樹・グリーンチェーン認定宅地等によるCO2吸収量増加倍率 (修正案) 公園・緑地・街路樹・グリーンチェーン認定宅地等によるCO2吸収量増加倍率※平成21年度を基準とした面積比 7ページに説明文章追加 ◇公園・緑地・街路樹・グリーンチェーン認定宅地によるCO2吸収源倍増◇ 現在、流山市では公園や緑地など、公共の場での緑化を推進していますが、流山市全体で緑を保全していくためには、住宅地や商工業地など、民間の土地でも緑化を進めて行くことが不可欠です。緑化に配慮した住宅等を認定し、その緑をつなげ「森のまち」の形成を図ることを目的とした「流山グリーンチェーン戦略推進事業」などにより、緑化とCO2吸収源の増加を図っています。

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
7-7	11、12	基本目標3	人口増加に伴い減量化が必要であり1人当たりも重要であるが、総量が問題である。「ゴミ排出総量」を指標とすべきと思う。	・【7-2】参照。	無し	
7-8	13、14	基本目標4	都市化に伴い、従来の典型7公害(大気汚染、水質汚染、土壌汚染、地盤沈下、騒音、悪臭)から都市型の熱汚染、CO2濃度、ダウンドラフトによる大気汚染など目に見えない環境も今後重要な課題となる。土地被覆の改変(緑地の減少、アスファルト舗装面、コンクリート建造物による影響)はヒートアイランドの原因になるので注視する必要がある。	・新たな課題については情報収集に努め、ヒートアイランド現象についても注視していきます。	無し	
7-9	16	基本目標2に関してのお願い	冷蔵庫のデータは最新版を。	・一般に入手できる最新の資料を用いています。	無し	
7-10	19	第4章実行計画の推進	第2次基本計画が策定された後に、3つの実行計画も見直しされるとの理解で良いか。 実行計画に於いては、PDCA管理が出来る指標が重要です。 <要望> * 第2次基本計画が絵に描いた餅にならないようにしてほしい。 * 各施策に対してPDCA管理が出来る目標設定をして欲しい。	・各実行計画見直しについては、本基本計画策定後、順次行います。地球温暖化対策実行計画については、国の温室効果ガス削減目標値の設定時期を見極めながら適正な時期に策定します。 ・各実行計画の指標の評価については環境マネジメントシステムで行っています。	無し	
8-1	26	3「流山市一般廃棄物処理基本計画」の推進②今後の方向性	P13に「施策の方向 ②放射能対策」の項目があり、次のP14に「◇福島第一原発事故に伴う放射能への対応◇・公共施設の除染・住宅の除染」について記載されていますが、放射能の寿命＝消滅(半減期)でしか評価できないようすが)はほぼ無限の歳月を要するので、P26の「③今後の方向性」のところに、「放射性廃棄物」に関わる事項、例えば、焼却灰や剪定枝についての説明、対応があった方がよいのではないのでしょうか。	・焼却灰の保管及び剪定枝の別回収についての経過を追加します。現在、国が指定廃棄物の最終処分場建設を予定していることから、現状で記載できる範囲で追加します。	有	26ページに以下を追記する。 【放射性物質を含む焼却灰及び剪定枝】 ・流山市では、平成23年3月に発生した福島第一原発事故に伴う放射性物質の飛散により、焼却により容積を減らした溶融飛灰の放射性物質濃度が、国の埋め立て基準である1kg当たり8,000ベクレルを上回る問題が発生しました。最終処分場へ搬出できない焼却灰(指定廃棄物)については、クリーンセンターに一時保管施設を設け保管せざるを得ない状況となり、また、各家庭で発生した剪定枝について別回収を開始しました。これに伴い、森のまちエコセンターで行っていたチップ化・堆肥化による再利用についても休止しています。 ・現在保管している焼却灰については、国の最終処分場が設置されるまでの間、「一時保管」を続けざるを得ない状況となっています。クリーンセンター敷地内に、放射能の遮蔽効果が高く自然災害にも耐えうる堅牢な一時保管庫として、厚さ30cmのコンクリート製のボックスカルバートを設置し、安全に一時保管を行います。平成26年度中に建設予定であった「国の最終処分場の1日も早い設置」が待たれています。 ・新たに発生するごみ焼却灰や剪定枝については、放射性物質濃度が最終処分場の自治体の受け入れ基準(自主規制値)を下回っていることから最終処分場への搬出を行っています。

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
9-1	1	1. 計画の趣旨	(1)計画の目的 字句挿入し追加 ※「環境の保全及び創造」:現在の環境を維持するだけでなく、安全で健康的な低炭素都市、衛生的で快適な都市、…… (2)計画の位置付け 流山市総合計画後期基本計画(平成22~31年度)と同等とする総合的な基本計画に位置付けます。 (今や総合計画の一部門ではなく、環境計画は総合計画とする位置づけとする)環境を基本としたまちづくりであると是正すること。 国を順応した自治体独自の計画が要求されている。	・「安全・健康」は、大気や水質などの「環境負荷」の表現に含まれており、「低炭素都市」とは異なる範疇と考えます。 「低炭素都市」については追加修正します。 ・市総合計画は、自治基本条例第22条第1項及び第4項に「市長は、総合的かつ計画的な市政運営を行うため、流山市の最上位計画として基本構想、基本計画及び実施計画を内容とする総合計画を策定します。」「市が行う政策は、総合計画に根拠を置かなければなりません。」と規定し、市の最上位計画に位置付けています。	有	1ページを以下のように修正。 (元文) ※「環境の保全及び創造」:現在の環境を維持するだけでなく、衛生的で快適な都市、緑の豊かな地域、環境負荷の少ない暮らしと経済など、将来のよりよい環境を積極的に創ることをいいます。 (修正案) ※「環境の保全及び創造」:現在の環境を維持するだけでなく、衛生的で快適な都市、緑の豊かな地域、環境負荷の少ない暮らしと経済、 <u>低炭素都市</u> など、将来のよりよい環境を積極的に創ること。
9-2	2	2. 計画の期間と対象	(1)計画期間 計画期間は総合計画基本構想(平成12~31年度)と合わせた31年度までの期間とする。 社会経済情勢や行政課題等の変化も考えられる環境社会は大きく変化する。総合計画の環境変化の見直しが伴う。必要に応じた見直しをも行い易くする。	計画期間については、計画策定にかかる期間、情勢変化等を総合的に鑑み10年間で適当と考えます。後期基本計画の計画期間終了後、次期計画に大幅な方向性の修正があった場合、環境基本計画についても整合を図ります。	無し	
9-3	2	3. 計画の進捗管理と推進	流山市環境白書のチェックや、生物多様性ながれやま進捗管理、推進は…、環境マネジメントシステムとは何か。 そのシステムの指標、PDCAとはどんな構成員、システムかを具体的に明記する。 3)の通り、総合計画と同一期間にすると指標の再度の決定は不要だ、統一性がなく分かりづらい、また見直しもできる。 「戦略市民会議」「ながれやま地球温暖化対策地域協議会」等に意見を求めながら施策を推進します。とは「市民会議」「協議会」なる会議は市民参加条例に照合した市民が積極的に参加協働できる方式に変更すべし。 過去の通り、チェック者がいない、絵にかいた餅に過ぎない、市民に説明が足りない。市民には見えない、市民との協働ではない。 健康都市宣言と環境基本計画 2)の項と同じ、総合計画と同一位置づけとすべし。 健康都市プログラムの5つの分野に関する各施策を、P1図に明記する。	・環境マネジメントシステムの内容及び指標については、毎年度発行している環境白書に記載していますので、環境基本計画には詳細を記載していません。 ・各会議は市民団体や事業者に参加をいただいております、これらの会議は公開で行っていますのでご覧いただけるほか、ご意見等については常時伺っていますのでお寄せください。 ・市総合計画との整合については、【9-1】参照。健康都市プログラムは、保健・医療分野だけでなく、環境・まちづくり・福祉・教育・地域社会・文化・スポーツなどの幅広い分野を網羅した横断的なプログラムとして策定していますが、本市の最上位計画である総合計画に基づき健康都市施策を推進するための個別計画と位置付けています。 ・健康都市プログラムの1ページの図の表記については、環境審議会でも同様の議論を行い、表記が煩雑になることなどから削除した経緯があります。	無し	
9-4	5	1. 計画の体系	P3に掲げた4つの課題と5つの基本目標には違和感を感じず。課題解決の目標には過去従来の施策を組み込んだにすぎず、新鮮味ある新施策には乏しい。より先を視点にした前進ある目標が望ましい。 例えば、既存実行計画が基本か、本新規基本計画が上位か。各計画との一連性がない。	・ご指摘の5ページの計画の体系は、環境施策を整理した基本目標を示しており、新施策については、本基本計画に基づき策定する各実行計画で位置付けます。各実行計画については、本基本計画に基づき順次見直しを行います。	無し	
9-5	6	2. 望ましい環境像	計画の趣旨、計画の目的に掲げた、「環境の保全及び創造」と相当なずれがある。6)項と同じ、より先を視点にした夢ある環境像にしてほしい。 自然環境も生活環境も大気状況の気候変動によって大きく変化する。地球温暖化の緩和策や都市の適応策を考慮した、環境対策を重点にしてほしい。	・望ましい環境像については、6ページにあるとおり、都市の発展による利便性の向上と豊かな自然、安心して健やかに暮らせる環境を守り次世代に残すべき姿として決めました。 ・地球温暖化問題や気候・気象変動については、重要な問題として認識しており、具体的な取組みとして基本目標2に位置付けています。	無し	
9-6	7	基本目標1の目標文	タイトル:自然と共生しオオタカがすむ、緑と水に育まれるまち を変更。 オオタカが住まなくてもよい、豊かなふれあい、があれば。	・【1-1】参照	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
9-7	9	基本目標2【方針】	【方針】様々な場面での省エネルギー対策によりエネルギー効率を高めるとともに、太陽の力を活用する軸とした再生可能エネルギーの導入を進め、二酸化炭素排出量の少ない低炭素型の都市の形成を目指す。低炭素都市促進条例を策定する作業に検討着手する。 ・省エネの推進強化 ・電力の抑制(10%以上節電の定着へ、動力の効率UP、再生エネ電力への代替) ・熱の有効活用(太陽熱、地中熱、熱電併用変換)	・低炭素施策に関しては、地球温暖化対策実行計画(区域施策編)に位置付け施策を推進しており、現時点での条例化は考えていません。 ・熱の有効活用については、【7-6】参照。 ・省エネルギー対策や再生可能エネルギーの普及促進は重要であることから、引き続き地球温暖化対策実行計画により施策を推進します。	無し	
9-8	9	基本目標2【施策の方向】	【施策の方向】「流山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)」を1本化し、同一期間・同一目標とする見直しを進める 進捗管理は環境マネジメントシステムの運用、改善を行うとともに市民参加型条例に適合する。	・地球温暖化対策実行計画(区域施策編)は、地球温暖化対策の推進に関する法律第20条第2項に基づき策定するもので、国の地球温暖化対策計画と長期目標を勘案し、市域の温室効果ガス排出量削減を定めるものです。また、地球温暖化対策実行計画(事務事業編)は、同法第20条の3で策定が義務付けられ、事業者としての市の事務及び事業からの温室効果ガス排出量削減を定め、比較的短期間での目標設定を行い施策を推進する性質が異なるものであるため期間及び目標値の1本化はできないものと考えます。 ・進捗管理については、環境マネジメントシステムを用いを行います。市民参加条例は、第5条で「市民参加の対象」を定めており、システムの運用は対象とならないものと考えますが、市民の皆様のご意見は常時受け付けていますので、お気づきの点がありましたらお寄せくださるようお願い致します。	無し	
9-9	9	基本目標2【市の取り組み】	市の取り組み 従来通りのままで新方策が見えない。下記を追加する。 ・低炭素都市促進条例づくり ・低炭素化への税制の見直し ・低炭素都市への「見えるか事業」の事業者との連携強化と推進 ・総合計画との調整と改善へ ・再生可能エネルギー推進管理専任者を選任し強化体制をつくる 再生可能エネルギーの安定的に供給できるかによって経済効果は発生する。特に熱利用は緊急時の電源多様化できる。戦略的に強化策を図り、病院・老人施設、学校等の避難施設に対応できるよう強化する。	・本基本計画は、環境基本条例に基づき、「環境の保全及び創造に関する施策の総合的な計画」として作成しますので、個別具体的な取組み等については個別計画である地球温暖化対策実行計画見直し時に検討します。	無し	
9-10	10	基本目標2【目標指標の進捗】	現の「流山市地球温暖化対策実行計画(区域施策編・事務事業編)」目標設定値に基づいた指標を明示し、進捗度を明確に示す。 各所に温室効果ガス、二酸化炭素と記してあるが、区別して判読理解は解りづらい。誤解を招く恐れあり、解説説明を記す必要ある。 再生可能エネルギー設備 P10の最終行 太陽熱や地中熱、熱電併用変換(コージェネ)、小水力などの再生可能エネルギー設備が…… 広く普及する可能性は大きい、情報収集だけでなく、具体的な推進事例や目標を記して推進方向を示す。前述の専任担当管理者を置く。	・地球温暖化対策実行計画(事務事業編・区域施策編)の評価については、環境白書で毎年度行っており、また実行計画見直し時に評価・総括を行います。 ・温室効果ガスと二酸化炭素の使い分けについては、区域施策編、事務事業編で対象としているガスが異なることに起因していますが、地球温暖化対策実行計画見直し時に対象ガスや算定方法等について検討します。また、本基本計画については、注釈を追加します。 ・太陽光発電設備以外の再生可能エネルギーについては【7-6】参照。	有	10ページ: 表の下に「※温室効果ガスの内訳については24ページ参照。」を追加。 24ページ: 温室効果ガスの後ろに「(二酸化炭素、メタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン)」を追加。 23ページ: グラフ注釈を「温室効果ガス」→「二酸化炭素」に修正。

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
9-11	23	(1)ストップ温暖化！ながれやまにこにこプラン②進捗状況	※市域の温室効果ガス排出量は国・県等の統計資料から算定するため、2年遅れての算定・公表となり…… 統計資料からの算出では2年～3年遅れの数値公表になる。現況を把握し対策をするには遅れの数値からでは4年～5年後となって対策にならない。 海外や日本の他地区ではエネルギー事業者との連携の下で翌月には前月のデータを分析し独自でエネルギー管理を行っている。本市でも是非実行してください。	・流山市が行う市域全体の温室効果ガスの算定方法は、「地球温暖化対策地方公共団体実行計画策定マニュアル(平成21年)」に基づき算定しており、用いる統計資料の公表が2年程度遅れるため、温室効果ガス排出量の算定も2年遅れとなっています。	無し	
9-12	23	(1)ストップ温暖化！ながれやまにこにこプラン③今後の方向性【計画の見直し】	国の対策削減目標が出た後での変更見直しでは、独自の目標値を立てて実行してゆかないと低炭素都市づくりとはならない。独自性を出すこと。	・温室効果ガス排出量の削減については、環境省の策定マニュアルにも国と地方自治体の施策による削減効果を合わせ目標値を設定することとなっています。 ・地球温暖化対策実行計画見直し時には、これを踏まえた上で、市独自の目標値を設定することを検討します。	無し	
9-13	不特定	第2次環境基本計画の決定について	(1)2年間の準備期間を設定しながら、1度なりとも市民との意見交換会や素案説明会がされず、9月に入り1か月間のパブコメを求めたに過ぎない。都合のよい市民アンケートのみを掲載しているのみでは、自治基本条例、市民参加条例を活かしていない。 (2)本計画決定までの市民が協働できる期間、手法等のプロセスを明らかに示してほしい。	・市民参加の機会については、市民参加条例で複数の市民参加の手法を取ることとされており、本計画策定では、公開の環境審議会、パブリックコメント、市民アンケートとしました。策定経過については本計画の28ページに記載しています。また、本計画策定を広く知っていただくため、平成26年3月11日号の広報でアンケート結果の公開の告知や、平成26年5月のグリーンフェスティバルにアンケート結果をパネル展示し周知に努めました。	無し	
10	不特定	実行目標とロードマップについて	基本計画素案に対しては良くできていると思います。問題は実行目標とロードマップが重要とみています。これらについてはおいおい進められると思いますが、市のみでの実行は困難であり、民間団体に業務委託で行わしめることも重要であろうと思います。 ①現在業務委託で行っているものは何がありますか。 ②業務委託後の目標に対する成果など総括されて、次年度に活かすことなど、過去の業務委託で行われているのでしょうか。費用対効果を今後みえる化していくべきではないかと思っている。	・流山市の業務委託については、経費削減、事務処理効率化、行政サービス向上に加え、市民参加による市民と協働のまちづくりを実現するための第3次アウトソーシングプランに基づき行っています。 ・市民団体に委託している事業については、環境政策・放射能対策課の事業だけでも「緑のカーテン事業」「市民環境講座事業」「生物種のモニタリング調査」「まちをきれいに志隊事業」など数多くの事業を市民団体と協働で行っています。 ・業務委託の成果等については、事業ごとに行政評価(事務事業マネジメントシート)により評価を行い次年度の事業に反映しています。	無し	
11	2	3.計画の進捗管理と推進	計画の進捗管理をする市民と行政でつくる市民会議の設置を提案します。PDCAで進める進捗管理に市民が参加し計画の進行を点検・評価し次のアクションにつながる作業に市民が参加することによって、行政と一緒に環境意識の向上が図れると思います。「生物多様性ながれやま戦略市民会議」のように「流山市環境基本計画進捗チェック市民会議」という名称などが考えられます。よろしくをお願いします。	・進捗管理については環境マネジメントシステムで行っており、認証制度であるエコアクション21の外部審査人による審査を受審していますので、さらに市民会議を新設する予定はありません。	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
12-1	10	基本目標2◇4つの理念で太陽光を軸に展開	<p>基本目標2「エネルギー効率が高く、太陽の力を活用する低炭素なまち」における具体的施策について 基本計画に出ている「4つの理念」に積極的に賛成いたします。ここでは、その具体化にあたって、いくつか私見を述べさせていただきます。 ☆行政施設、学校などでの太陽光エネルギー利用促進と市民参加 流山市においても進められていますが、市民の共有財産である行政施設や学校の屋根などに太陽光発電パネルを置いたり、熱利用設備を置くにあたり、より積極的にアピールすることが必要ではないでしょうか。 その際に、市外の発電事業者へ屋根貸しをするのではなく、発電事業者そのものを市内の事業者とするなどの「地産地消」化が鍵になると思います。特に行政施設や学校に関しては、自前の発電設備を持つことは地震など大規模災害で系統電力供給が絶たれた場合に、地域拠点として照明や必須電力の一部を供給するという公共的使命も果たせます。 また、学校などではその設備を教育の現場で活かすこともできるでしょう。さらに、可能であれば発電パネルを市民共有の財産とするなどの新たな形式も考え出していけないでしょうか。パネルの区分所有などによる市民の「オーナー化」は学校を基盤にした地域コミュニティの創出にもつながると思います。また、一戸建てに住まない集合住宅住民にとっての太陽光発電への参加機会を提供することにもなります。 将来、電力供給の自由化が実現した場合に、たとえば流山の市民による発電組合のようなものも可能になるでしょう。その際に、市民の共有財産である施設の有効利用として、市民の共同出資による発電も可能ではないでしょうか。 総務省の調査では2011年で年間に支出する電気料金は一世帯あたりおよそ10万円です。ざっと流山市から電気料金として年間68億円が「流出」していることとなります。新たな雇用と経済の地域循環をビジネスモデル化していけるのではないのでしょうか。</p>	<p>・公共施設への再生可能エネルギーの導入等については、環境白書や市ホームページ等で周知を行っていますが、今後も機会を捉え周知を行っていきます。 ・平成26年10月現在、公共施設の屋根貸しは、クリーンセンター、生涯学習センター、小中学校で行っていますが、全て市内事業者への屋根貸しとなっています。 ・災害時の非常電源としての活用については、屋根貸し事業者と協定を結び災害時に活用できるようにしています。 ・市民・事業者等による市民発電所等の具体的な情報は把握していませんが、市内で市民発電所等に取り組むという事業者や市民団体があれば、その時点でご相談に応じたいと考えています。</p>	無し	
12-2	10	基本目標2◇4つの理念で太陽光を軸に展開	<p>☆建築物の省エネルギー化 窓など開口部の二重化などによって熱伝導係数を減らし、冷暖房のための資源・コストを削減できるはずですが、 新築時の規制なども考えられますし、既存建築物の補修もターゲットになります。市の方針でも検討課題になっている地中熱利用なども含めて、これからビル建築にはいかに化石燃料使用量を減らしていくかが求められていると思います。 たとえば行政の施設で率先して導入し、その結果を公表することで市内事業者、ビルオーナーなどへの啓発材料とすることも可能でしょう。 そこで経済効果が実感されれば、市民の家屋での省エネ化も市場ベースで促進していくと思われます。</p>	<p>・市では、平成21年度まで「地球にやさしい住宅設備設置奨励金」の対象設備のひとつとして、住宅向けの断熱複層ガラス奨励金の給付を行っていましたが、普及が進み新築における標準仕様となりつつあったことから、平成22年度からは対象を太陽光発電設備に一本化した経緯があり、引き続き太陽光を軸とした施策を推進します。 ・開発事業者に対しては、「流山市開発事業の許可基準等に関する条例」に基づき太陽光発電設備や雨水利用設備の導入に配慮し、環境負荷の低減に努めるものとしています。また、「エネルギーの使用の合理化に関する法律」による改正省エネ基準に基づき、適切な指導を行っています。 ・住宅については、「長期優良住宅の普及の促進に関する法律」及び「都市の低炭素化の促進に関する法律」に基づく認定制度を啓発することにより、一定の断熱性能を確保した建築物の普及を推進しています。 ・公共施設への導入については、国の補助や費用対効果等を総合的に勘案し個別に検討を行います。</p>	無し	

No.	該当ページ	当該箇所	ご意見等	市の考え方	修正の有無	第2次流山市環境基本計画 修正案
12-3	10	基本目標2◇4つの理念で太陽光を軸に展開	<p>☆太陽熱利用の普及 エネルギー使用割合は熱利用が化石燃料使用削減のために、太陽熱の利用を促進する施策が必要だと思えます。 たとえば、『エネルギー白書2014』での「世帯当たりのエネルギー消費原単位と用途別エネルギー消費の変化」によれば、2012年度の一次エネルギー消費では動力・照明で37.3%、給湯で28%、暖房で24%、厨房で8.3%となっています。 民生機器として高効率化している太陽熱温水器の再度の普及促進が求められます。かつて市では太陽熱利用に補助金がつけられていた時期があったと聞きました。補助金政策は財政事情によって困難かもしれませんが、何らかの施策をつくるべきだと思います。</p>	<p>・太陽熱温水器については、平成21年度まで「地球にやさしい住宅設備設置奨励金」の対象設備のひとつとして奨励金の給付を行っていましたが、申請件数が少なかったことから、平成22年度からは対象を太陽光発電設備に一本化した経緯があり、引き続き太陽光を軸とした施策を推進します。</p>	無し	
12-4	10	基本目標2◇4つの理念で太陽光を軸に展開	<p>☆バイオマスの積極利用 1)木質バイオマスの利用は、ドイツなどヨーロッパでは地域コミュニティにねざしたものと普及しているといわれますが、流山でも可能な道筋を見つけていくべきでしょう。 木質バイオマスの利用形態としては、たとえば薪ストーブやペレットストーブなどの普及もしていく必要があるでしょう。暖房には化石燃料や電気が使われていますが、電気利用はそもそも電気が発電送電段階で燃焼させて得たエネルギーのほとんどが排熱として環境に捨てられた上で得られており、それを再び熱源化するのには論外です。灯油やガス利用も炭酸ガスを増加させるので、この木質バイオマスによる代替はダイレクトに環境保全に効いてきます。家庭での普及にはストーブのさらなる開発と低価格化、施工の標準化、薪やペレットの市場化という課題がありますが、たとえば行政施設や公共的な施設でのボイラーなどでの積極利用を図っていくことは可能だと思います。 流山市内の森林間伐材で事業化がどの程度可能かを調査し、必要なら近隣自治体と協力して都市近郊森林の保全のために地権者との共同で保全のためのプログラムを作成することが必要でしょう。それらの間伐材は燃料化して地域での熱源として使用し、化石燃料使用量を削減できます。そのために必須の労働力に関しては、たとえば有償ボランティアという形で市民の遊休労働力を活用するなど考えられます。あるいは、都市部と山間部のつながりを取り戻すために、たとえば自治体間提携をして山間部自治体と建築用製材・燃料加工の包括的な協力関係をつくり、市民に提供するなども考えられないでしょうか。 2)バイオガス利用 市のごみ焼却施設でも熱利用の促進をうたっておられます。さらに、生ごみの有効利用としてメタンガスを生成してたとえば「グリーンバス」の燃料源とするなどの「見える化」もあってよいと思えます。 下水処理は流山独自では行っていないと思いますが、県に働きかけて、栃木県や宮古市でのバイオマスガス発電などの事例も参考に検討できないでしょうか。</p>	<p>・市内では、産業としての林業は行われておらず木質バイオマスの安定的な供給源がないため、公共施設での燃料利用は考えておりません。 ・生ゴミについては、衛生的にも安全に焼却することが適当と考えます。現在行っている焼却により発生した熱による高温水としての熱利用を引き続き行います。 ・流山市のバイオマスとしては、平成22年度に「森のまちエコセンター」を開設し、公園や家庭から出る剪定枝を収集し、チップ化・堆肥化事業を行いました。その後の東日本大震災と放射能の影響により、現在事業を中断している状況にあり、同事業の再開については、今後の放射能の影響の推移を見ながら判断したいと考えます。</p>	無し	
12-5	10	基本目標2◇4つの理念で太陽光を軸に展開	<p>☆省エネと自然エネルギー利用を軸とした流山市のまちづくり条例 総論的になりますが、たとえば長野県飯田市では平成25年に「再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくりに関する条例」を制定して、地域づくりを自治会などの地縁組織と市民による団体とともに自然エネルギー生産を軸とした地域経済の育成とコミュニティの再生を試みはじめています。飯田市は森林や河川などに恵まれた地域であって流山市とは条件が違いますが、逆に大都市近郊のベッドタウンでもあり農業生産地でもあるという流山市の特性をいかした積極的省エネ施策とエネルギー地産地消のあり方も創り出せるものと考えます。市民と一緒に、市がこのような条例を積極的に制定していくように願うものです。 以上、雑駁ながら私見を述べさせていただきました。今後とも市民とともに施策を推進して下さるようお願いいたします。</p>	<p>・省エネと自然エネルギーに関しては、太陽光発電設備設置奨励事業に加え、平成25年度から住宅用省エネルギー設備設置補助事業を行い施策を推進しており、現時点で条例化は考えておりません。</p>	無し	